

## 例 言

- 1 独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所（当時）と大韓民国国立文化財研究所は、2005年12月20日に、「日本の古代都城並びに韓国古代王京の形成と発展過程に関する共同研究」という題名で、日韓共同研究合意書を取り交わした。本書は、2010年度までの共同研究の成果を論文集として取りまとめたものである。
- 2 本共同研究では以下の4項目をあげ、本書にはこの課題に則した論考17篇を収録した。
  - (1) 日韓都城制の比較研究と遺構の研究
  - (2) 都城・寺院における出土遺物の研究
  - (3) 古建築の構法・技法に関する復原的研究
  - (4) 遺跡の整備・復元手法に関する研究
- 3 本論文集は、日韓同時出版とし、韓国語版は『韓日文化財論集Ⅱ』として、大韓民国国立文化財研究所より出版されている。本書とあわせてお読みいただきたい。
- 4 韓国語論文の翻訳にあたっては、松永悦枝氏（大韓民国慶北大学校博物館）・村松洋介氏（大韓民国釜山大学校大学院）・石丸あゆみ氏（東京大学大学院）の多大なご協力をいただいた。翻訳に際し、原文に忠実に訳すことを心がけたが、一部意識したところがある。誤解および誤訳があれば編集者の責に帰するものである。
- 5 本書に使用した写真・図面の掲載にあたり、以下の関係各機関よりご高配を得た。

大韓民国国立文化財研究所、国立伽耶文化財研究所、国立羅州文化財研究所、国立慶州文化財研究所、大韓民国国立中央博物館、国立扶余博物館、国立慶州博物館、薬師寺、興福寺、法隆寺、室生寺、醍醐寺、一乗寺、浄瑠璃寺、海住山寺、明通寺、靈山寺、長福寺、西明寺、石手寺、大法寺、百濟寺、明王院、安樂寺、園城寺、出羽三山神社、宝福寺、如意寺、談山神社、京都大学考古学研究室、宮城県教育委員会、川崎市市民ミュージアム、堺市教育委員会、宇治市教育委員会、八幡市教育委員会、(財)京都市埋蔵文化財研究所、京都市、九州歴史資料館、福岡市埋蔵文化財センター、太宰府市教育委員会、春日市教育委員会、大野城市教育委員会、小学館、淡交社（順不同・敬称略）
- 6 本書の編集は都城発掘調査部が担当し、深澤芳樹の指導のもと、次山淳・庄田慎矢・諫早直人・高田貫太（現・国立歴史民俗博物館）がおこない、英文要旨の作成には石村智（企画調整部国際遺跡研究室）・Edwards Walter氏（文化遺産部客員研究員）の助力を得た。